



第2章 水道水源林管理の現状

1 水源林の概要

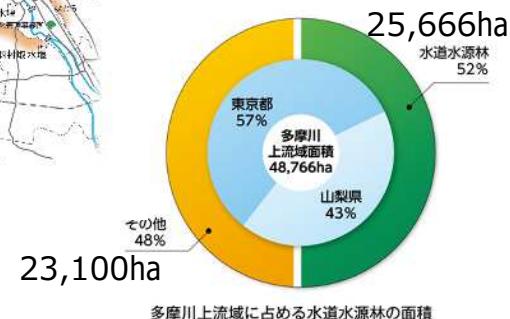
多摩川上流域のほとんどは森林となっており、その流域は奥多摩町をはじめ山梨県にまで及びます。

多摩川上流域の森林は、明治時代には焼畑や乱伐等により、荒廃が進行していましたが、こうした森林の状況を憂いた当時の東京府は、明治34（1901）年に皇室の所有であった御料林を譲り受け、水道局がこの森林を「水道水源林」として、120年以上にわたり継続的かつ計画的に育成・管理を行っています。

この間、民有林の購入なども進めながら、現在では約26,000ヘクタールの森林を水源林として管理しています。

水源林は適切に管理することで、水源かん養や土砂災害防止・土壤保全等の森林が持つ多面的な機能を発揮することが可能となり、小河内貯水池（奥多摩湖）の安定した水量の確保や水質保全にも大きく貢献しています。

【多摩川上流に広がる水道水源林】



120年前（1900年代）の荒廃した山林



現在の緑豊かな水道水源林の姿



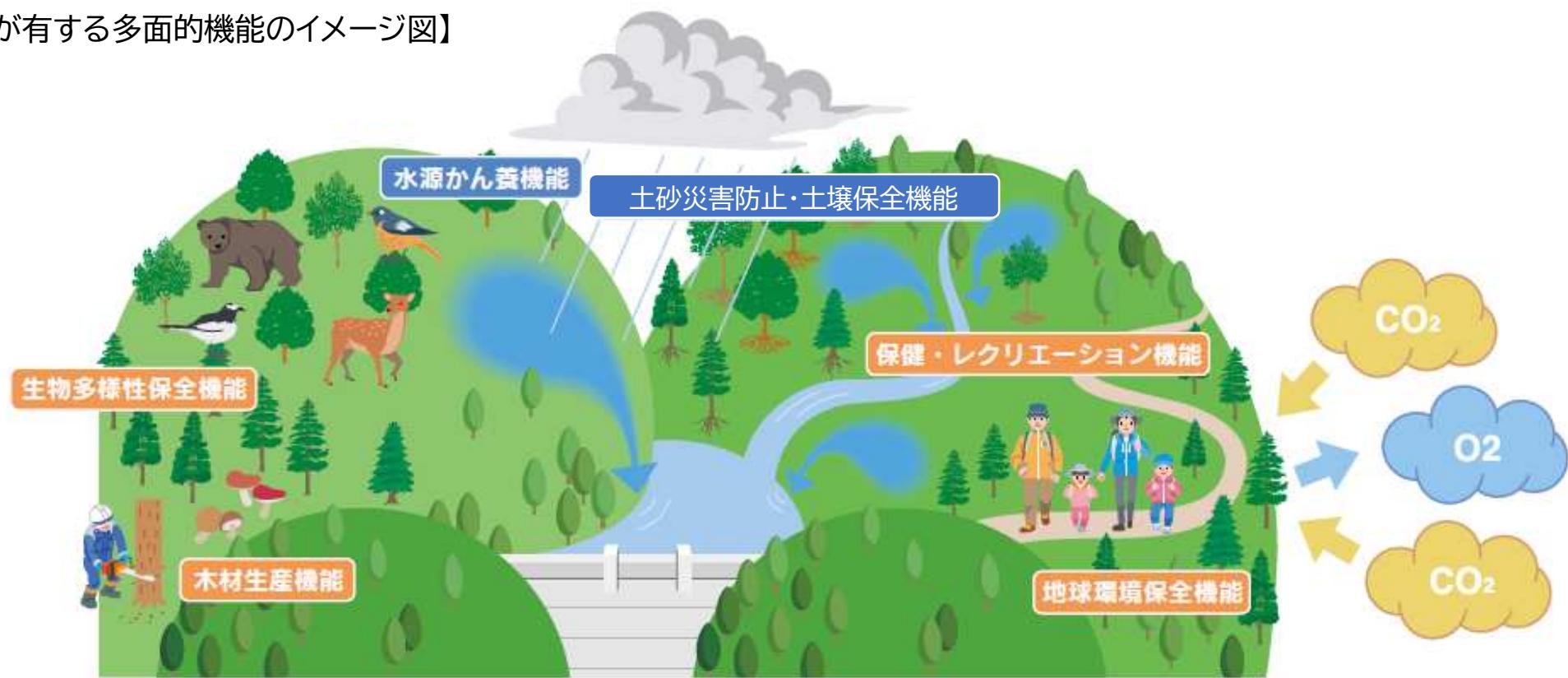
2 水源林の働き

水源林には、降った雨を土壤に蓄え河川流量を安定化させたり、土壤中を移動する過程で水質を浄化する「水源かん養機能」、山地からの土砂の流出を抑え、土砂災害の防止やダムの堆砂を抑制する「土砂災害防止・土壤保全機能」があります。

また、その他にも様々な生物の住みかとなる「生物多様性保全機能」、二酸化炭素吸収・酸素生産といった「地球環境保全機能」、行楽場所などとしての「保健・レクリエーション機能」など、多面的な機能を持っています。

水源林は、安全でおいしい水の安全供給に寄与することはもとより、我々の生活とも密接につながっています。

【森林が有する多面的機能のイメージ図】





3 水源林の管理

多摩川の安定した流量を維持し、きれいな原水を確保していくためには、水源林が持つ水源かん養機能などが十分に発揮されるよう、水源林の保全管理はもとより、多摩川上流域に広がる水源地全体の保全に取り組んでいく必要があります。

水道局では、水源林において保全管理を行うとともに、山地災害の予防と復旧、林道の整備なども行っています。

また、林業不振などにより手入れが行き届かない民有林については、ボランティア（多摩川水源森林隊）と協力した森づくりにも取り組んでおり、所有者が手放す意思のある民有林については、購入した上で必要な整備を行っています。

さらに、多様な主体と連携した森づくりを進めるため、「東京水道～企業の森（ネーミングライツ）」や「企業協賛金制度」の展開、水源林に関する情報を集約したポータルサイト「みづふる」の運用など、様々な取組を行っています。

適切な森林管理



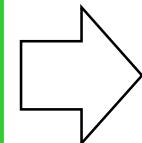
植栽

次世代の木を育てるため、苗木を植えていきます。



間伐

木の成長を促進させるとともに、林内に光を取り入れ、下層植生を豊かにするために、間引きをします。



多摩川の原水の供給



水道水源林と小河内貯水池(通称「奥多摩湖」)

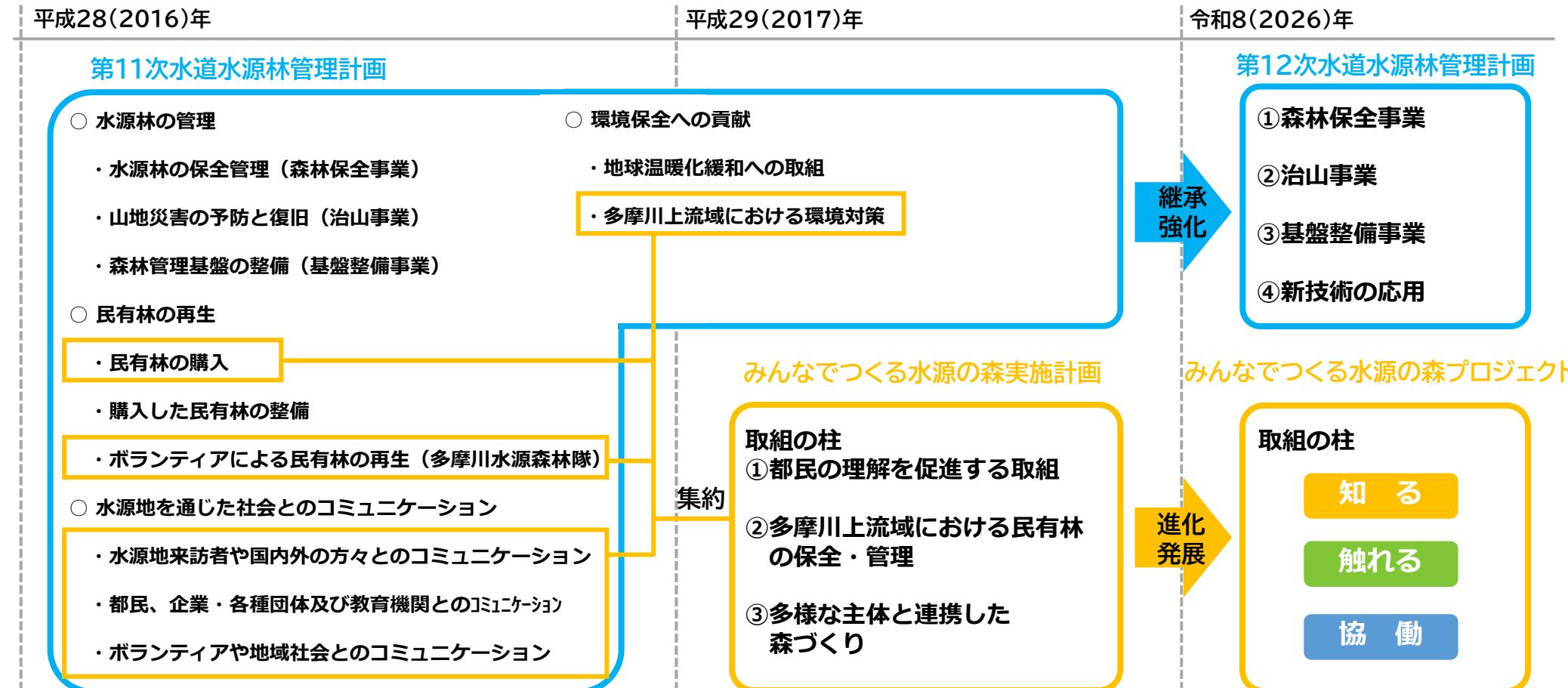
小河内貯水池は、国内最大級の水道専用ダムです。水源林を適切に管理することで、ダム完成から約60年以上経過していますが、流入する土砂が少なく堆砂率は約3.8%となっています。



3 水源林の管理

水源林を育成・管理するに当たっては、森林管理の方針等を示した「水道水源林管理（経営）計画」をおおむね10年ごとに策定し、継続的かつ計画的に行ってています。

また、平成29（2017）年からは、手入れの行き届かない民有林の積極的な購入や、多様な主体と連携した森づくりの取り組みを一層推進するため、「みんなでつくる水源の森実施計画」を策定し、水源林をはじめとした水源地の森林保全にも取り組んでいます。



4 水源林を取り巻く環境

気候変動などによる環境問題や、SDGsをはじめとした持続可能性への取組などに対する世の中の関心が高まる中、森林が持つ多面的な機能への注目が集まっており、今や森林保全はこうした取組と切り離せない関係性にあります。

今後、森林保全の取組を進めていく上では、これらの取組と連携し整合を図っていく必要があります。

○東京都水道局 環境5か年計画2025-2029 令和7(2025)年3月策定

東京都水道局環境5か年計画2025-2029は、環境基本理念に基づき、局事業に伴う環境負荷低減を実効的・総合的に推進していくことを目的としており、5年間に取り組むべき施策と目標を明らかにしたもので、環境施策の実効性の向上に取り組んでいくとしています。



○持続可能な開発目標(SDGs)と多様化するニーズ

持続可能な開発目標(SDGs)は、平成27(2015)年の国連サミットで採択された国際目標で、令和12(2030)年までに達成すべき17の目標と169のターゲットから構成されており、「誰一人取り残さない」持続可能でより良い世界の実現を目指しています。

近年、SDGsの理念が広く世の中に浸透する中で、水源林は目標との親和性が高く、企業によるCSR(企業の社会的責任)活動などの場としても活用されています。こうした機運の高まりを好機と捉え、多様な主体と連携した森林づくりを展開していくことが効果的となっています。





5 これまでの取組と課題

これまで水道局では、水源林を適切に管理するため、「水道水源林管理計画」と、このうち早急かつ重点的に推進していくべき施策を取りまとめた「みんなでつくる水源の森実施計画」の2つの計画を策定し、水源林の保全管理に取り組んできました。

しかし、今ある水源林を将来にわたり適切に育成・管理を進めていくためには、都民のみなさまの理解や協力が不可欠です。また、森林が持つ効果などに対する世の中の注目が集まる中、これを好機と捉え、多様な主体と協力しながら森づくりを進めていくことが有効です。

のことから、これまで進めてきた取組の実績と課題をしっかりと認識した上で、解決策となる施策を展開していくため、前計画の見直しを行うとともに、一層発展させていく必要があります。

これまでの取組・「みんなでつくる水源の森2021」における計画の柱と主な取組

都民の理解を促進する取組

水道水源林特設サイトの開設

ふれあい館等のリニューアル

など

多摩川上流域における民有林の保全・管理

民有林の積極的な購入

多摩川水源森林隊による保全活動

など

多様な主体と連携した森づくり

多摩川水源サポーター

東京水道～企業の森
(ネーミングライツ)

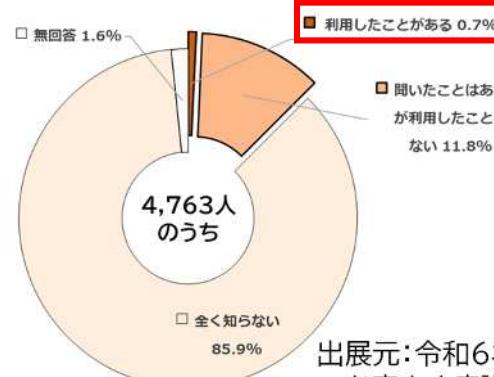
など

5 これまでの取組と課題

「みんなでつくる水源の森実施計画2021」の主な取組と課題

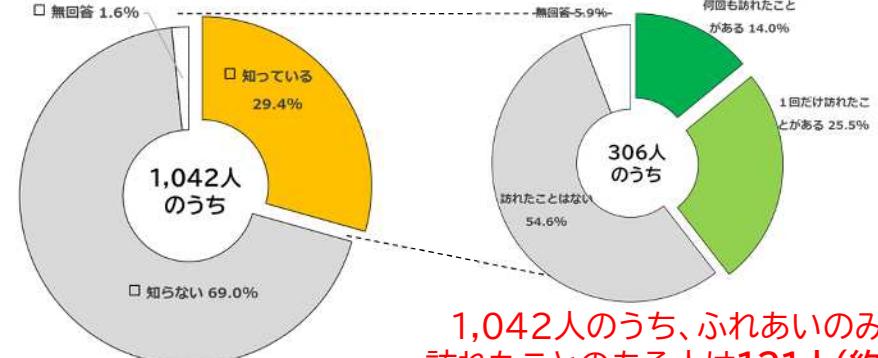
取組内容	実績(令和3年度～令和7年度)	課題
促進する 都民の理解を 取組	○水道水源林特設サイトの開設	・水道水源林ポータルサイト「みずふる」を令和4年3月に開設
	○奥多摩 水と緑のふれあい館(以下、ふれあい館)等のリニューアル	・ふれあい館を令和7年3月リニューアル(デジタル技術の活用、多言語表示の拡充等) ・ふれあい館に隣接する「ふれあいのみち小河内ゾーン」にサクラを植栽

水道水源林ポータルサイト「みずふる」の利用状況等



出展元：令和6年度東京の水道に関する
お客様意識調査

ふれあい館におけるアンケート調査(令和7年度) 「ふれあいのみち(小河内ゾーン)」に関する認知度



1,042人のうち、ふれあいのみちを
訪れたことのある人は121人(約12%)

5 これまでの取組と課題

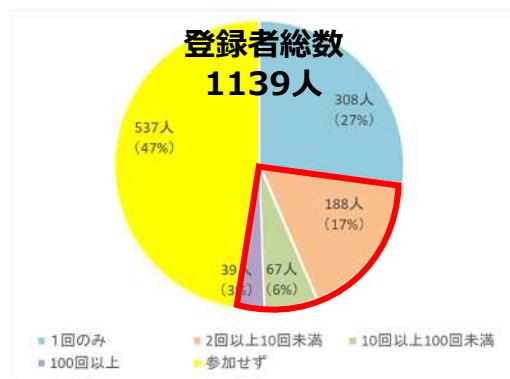
「みんなでつくる水源の森実施計画2021」の主な取組と課題

取組内容	実績(令和3年度～令和7年度)※1	課題
<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">多摩川上流域における民有林の保全・管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ○民有林の購入 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な購入※2 936ha ・公募による購入 184ha 	<ul style="list-style-type: none"> ・購入した森林の整備が必要になっています ※「水道水源林管理計画」にて別途解決策を検討します
<ul style="list-style-type: none"> ○多摩川水源森林隊による保全活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩川水源森林隊による保全活動を実施 活動回数 637回 参加者6,396人 活動面積 55.63ha 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の固定化が進んでいます ・初心者にとって難易度が高い作業が多く気軽に参加しづらい状況です

※1 令和7年度の実績は令和7（2025）年12月末現在のものです

※2 小河内貯水池への影響が特に懸念される周辺地域での取組

森林隊ボランティア登録者とその参加傾向(令和5年3月)



登録者のうち
複数回参加したことがある方の割合は1/4程度
(26%)
↓
・参加しない又は
1回のみの参加が大半
・参加者が固定化

作業に関する意見

- ・力もないし運動能力も低いのでそういう人も参加しやすいイベント形式が良いと思う
- ・季節が良い時期に軽めのお手伝いが良い
- ・女性でもできる作業がよい

（令和5年度スイサポ交流会アンケートより）

5 これまでの取組と課題

「みんなでつくる水源の森実施計画2021」の主な取組と課題

連携主体	実績(令和3年度～令和7年度)	課題
多様な主体と連携した 森づくり	○多摩川水源センター	・ サポーターの方にイベント情報や水源地の状況をメールマガジンで配信 登録者数 約5,600人※ メールマガジン配信 12回/年
	○東京水道～企業の森 (ネーミングライツ)	・ 企業と協定を締結し森林保全を実施 協定締結企業数 12社
	○小学生向け学習支援	・ 学習支援教材を小学校に配布 配布校数 約120校/年

※ 実績は令和7（2025）年12月末現在のものです

多摩川水源センター 登録者の推移



企業と連携した森づくり



現在の学習支援教材

＜現在の紙教材＞
フル学習で10時間程度



＜現在のデジタルブック＞
紙教材を電子化したもの

